

# 新しい 自治の あり方

第4分野

## 目次

- 4・1 [第4分野の宣言]  
[10年後の中野の姿]
- 4・2 [地域セルフガバメントの目的]
- 4・3 [地域セルフガバメントの概要]
- 4・7 [地域セルフガバメント 8つの特徴]
- 4・10 [区役所と地域セルフガバメントの役割分担]  
[住民の権利]
- 4・11 [地域セルフガバメントへの移行の工程]
- 4・12 [付記] 第4分野 討論の経過

## [ 第 4 分野の宣言 ]

私たちは、「自分(たち)で考え、決め、行動し、責任を持つまち」をめざします。

## [ 10 年後の中野の姿 ]

10 年後、中野区は数カ所の地域セルフガバメントに分かれ、それぞれの地域では区民が知恵を絞り、協力しあいながら、独自プランを推し進めている。

この地域セルフガバメントには、中野区在住の区民だけでなく、在学、在勤、在活動者など中野に関わる人々、企業、町会・自治会、住区協議会、NPOなどの法人や団体、中野区の利用者や観光客、短期滞在者など中野に興味・関心のある人々がつどっている。こうした「新しい中野区民」によって地域セルフガバメントは運営されている。

ある地域セルフガバメントでは、世代間を超えた交流、児童たちの安全確保のため、余裕教室に高齢者施設や地域セルフガバメントの事務所などが入った複合施設として小・中学校が生まれ変わっている。

ある地域セルフガバメントでは、由緒ある公園を核にした、まちづくり・まちおこし計画が、地元商店街、区民、隣接する他の自治体・自治組織、観光客や利用者も巻き込んだ形で、進んでいる。

ある地域セルフガバメントでは、行政事務を夜間に移行したり、夜間保育を充実するなど、共働きの子育て世代に特化したプランを計画・実行している。

ある地域セルフガバメントでは、人材バンクの充実と活用に重点を置き、学生や無関心層、自治に関わる時間を作れない区民、高齢者を巻き込んだ新しいコミュニティ作りを押し進めている。

数カ所の地域セルフガバメントは互いに切磋琢磨し、情報を発信・共有しあいながら、理想とする「自分(たち)で考え、決め、行動し、責任を持つまち」をつくり続けている。

## [ 地域セルフガバメントの目的 ]

地域セルフガバメントの目的は、このようなまちを作ることです。

### 小さな区役所で効率的なサービスが可能なまち

わたしたち区民が、積極的にまちづくりに関わることで、スリムで健全な財政（=小さな区役所）が実現します。わたしたち地域セルフガバメントの構成員ひとりひとりと区役所が、自助、公助、共助によってサービスを行うことで、これまでのような行政からの一方向のサービスではなく、効率的で新しい公共サービスが生まれます。

### 独自プランができるまち

わたしたち区民が直接、考え、決定し、行動することで、地域活性化を目的とした、より具体的な独自プラン、変動の激しい現況に対応するための的確なプラン、地域特性・生活に即した、効率的できめの細かいプラン、などを決定・実行できます。同時に、地域の核が区役所から地域セルフガバメントに移ったことで、わたしたち区民との距離も縮まり、より自治への参画がしやすくなります。

### 安心・安全の生まれるまち

わたしたち区民が、自分たちで考え、行動することで、地域に密着した安心・安全のための方策を決定、推進することができます。

## [ 地域セルフガバメントの概要 ]

地域セルフガバメントとは、執行権を有し、実行と結果の責任を持つ、区民主体の地域自治組織です。中野区は4～6つの地域セルフガバメントの集合体となります。

### 名称

【地域セルフガバメント】 4～6つの地域に分かれた後は、それぞれの地域名を冠につけ、「地域名+セルフガバメント」と呼びます。

### 構成メンバー

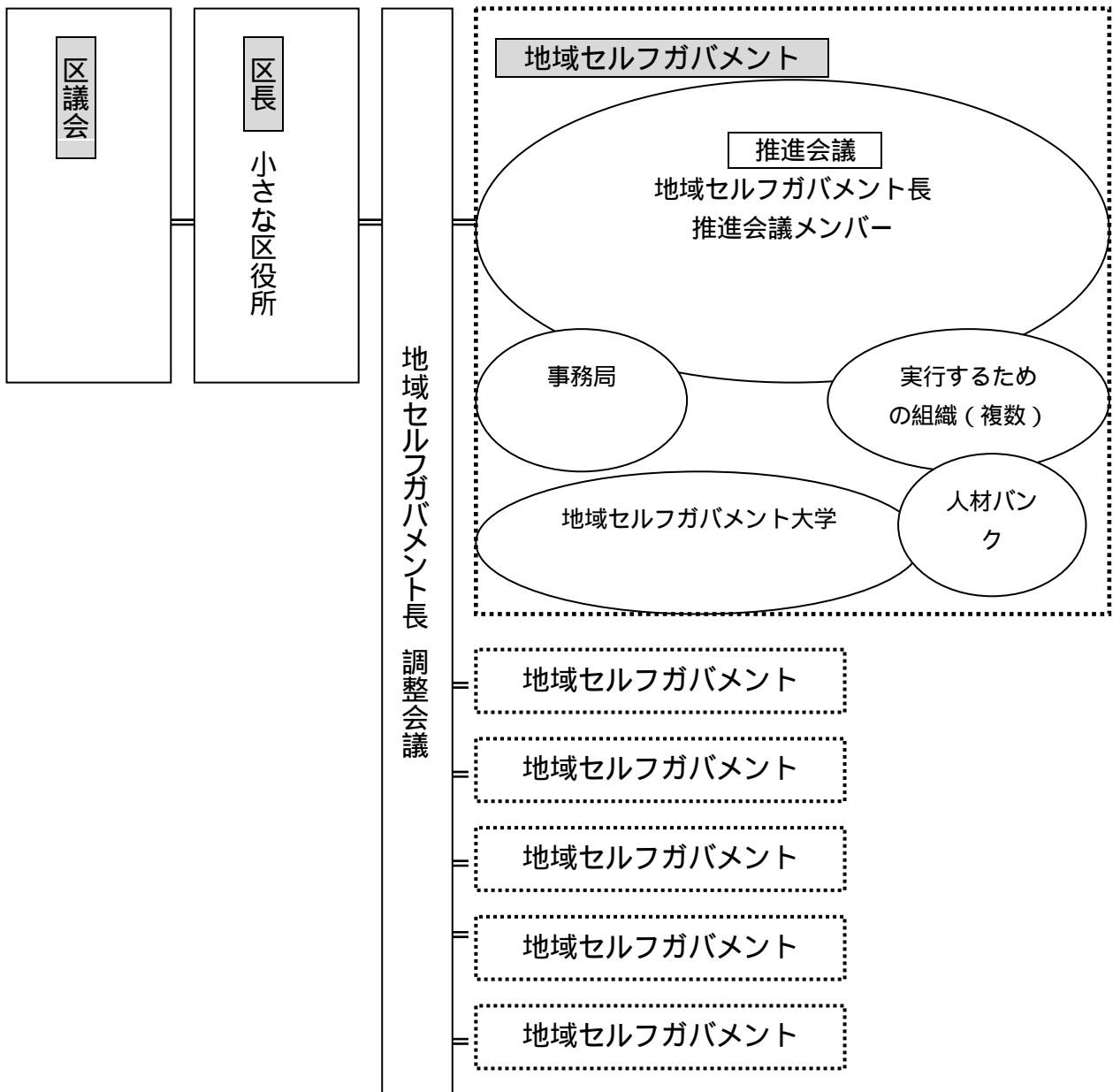
中野区在住、在学、在勤、在活動者など中野に関わる人  
中野区の企業、町会・自治会、住区協議会、NPOなどの法人や団体  
中野区の利用者や観光客、短期滞在者など中野に興味・関心のある人  
これらのすべてが地域セルフガバメントを構成する「区民」です。

### 組織

地域セルフガバメントは、以下の組織・システムを備えます。

- (1) その地域の大きなビジョン、個別のテーマを話し合い、決定する「推進会議」
- (2) その会議のリーダーであり、執行権を有する「地域セルフガバメント長」
- (3) 決定したことを実行に移す「実行するための組織」
- (4) 各地域セルフガバメント同士の連携、情報共有、横断的なテーマを話しあうことを目的とした「地域セルフガバメント調整会議」(各地域セルフガバメントの共通機関)
- (5) 区民と区役所の職員からなる「事務局」
- (6) 地域セルフガバメントを支える人材の確保、地域内でのコミュニティの充実をはかるための、地域セルフガバメント独自の「人材バンク」
- (7) 区民がお互いに学びあう空間・組織としての「地域セルフガバメント大学」

# 組織図



## 推進会議

【執行機関】 地域セルフガバメントの執行機関として、「推進会議」を設けます。

【メンバー選出】 推進会議のメンバーは、自薦（公募）、他薦（団体推薦など）、無作為抽出の3つの方法によって選出され、それぞれ7名ずつの計21名程度とします。テーマごとに「実行するための組織」のリーダーが推進会議のメンバーとして参加します。

【決定方法】 推進会議ではメンバーの多数決を持って、議決されます。重要な案件に関しては、ホームページや広報誌を利用した区民投票を実施し、内容をはかります。

【メンバーの流動性の確保】 推進会議メンバーの任期は、1期3年、連続2期までとし、多選を禁じます。期の終わりに半数のメンバーを入れ替え、メンバーの固定化を防ぎます。

【推進会議の効力】 推進会議で条例を提案し、さまざまなことを決定することができるように、特区申請を行います。

【報酬】 基本的に無報酬とします。地域セルフガバメントによっては、地域通貨によって支払うところもあります。

## 地域セルフガバメント長

【資格】 推進会議メンバーの中の、中野区在住の区民より選ばれます。

【選出法】 各地域セルフガバメントのホームページ、広報誌などを利用して、区民が推進会議のメンバーの中から選びます。

【執行権】 区議会の同意を得、区長が任命することで執行権が付与されます。

【区長による罷免】 区長は、地域セルフガバメント長を罷免する権利を持ちます。罷免する際はその理由などを公開します。

【区民による罷免】 区民は、地域セルフガバメント長を罷免する権利を持ちます。

【任期】 推進会議のメンバーと同じく、1期3年、連続2期までとします。

## 実行するための組織

【推進会議による発足】 推進会議で決定されたテーマを実行するために、推進会議が立ち上げます。

【自治組織による発足】 町会・自治会や住区協議会などの自治組織、NPOなどの団体が個別のテーマを推進会議に提出し、採用された場合は、その組織がそのまま、「実行するための組織」となることもできます。

【メンバー】 区民ならば誰もがメンバーになることができます。

【リーダー】 実行するための組織の中で民主的に選出されたリーダーは、そのテーマの遂行期間中は、推進会議に参加します。リーダーは実行する案件に対し、責任を負います。

【期間】 テーマが完遂するまで継続されます。

#### 地域セルフガバメント調整会議

【メンバー】 区長、各地域セルフガバメント長によって構成されます。

【会議内容】 いくつかの地域に関連する課題、横断的なテーマなどの調整、情報交換、情報共有などを行い、区全体として効率のいいサービス実現を目指します。

#### 事務局

【メンバー】 区民と区役所の職員によって構成されます。

#### 人材バンク

【登録】 区民であれば、誰でも登録できます。

【対価】 仕事の対価は、(1)無報酬 (2)賃金 (3)地域セルフガバメント独自の地域通貨 のいずれかで行います。

【連携】 各地域の人材バンクと連携を取り合い、中野区全体で広く人材を活用します。

#### 地域セルフガバメント大学

【学びあう内容】 自治や区の財政・経営、インキュベータ(ベンチャー企業を支援し、育てる人材)やファシリテータ(自治的な会議の進行を手助けする人材)やシティマネージャー(自治のリーダー)の育成、商店経営やまちづくりなどを学びあいます。

【場所】 小中学校の余裕教室や区施設など、場所を固定せずに講義や勉強会を開催します。

## [ 地域セルフガバメント 8つの特徴 ]

地域セルフガバメントは、区役所を分割したものでなく、従来の自治組織とも異なる、新しい形態の地域自治組織です。具体的に、以下の8つの特徴を持っています。

### 自主決定 実行まで責任を持つシステム

地域セルフガバメントでは、推進会議に参加する、実行するための組織に参加する、アンケートで参加する、テーマを推進会議に挙げる、など参加しやすい方法で、すべての区民が、サービスの具体的な内容（受け止め方）や独自のプランを、自分たちで考え、決定することができます。決定権・執行権を有していることで、施策には区民の考えがストレートに反映されます。

### 情報共有 双方向による情報発信・情報共有

地域セルフガバメントでは、区民全員が情報（個人情報以外の情報）を「知る努力」「知らせる義務」を負っています。地域セルフガバメント、区民の双方向による情報発信・情報共有の方策として、広報誌の発行、ホームページの開設を行います。ホームページでは、議事録や独自プランの進捗状況の公開などを行い、地域セルフガバメントの現況が誰からもわかるようになっていきます。広報誌では折り込みハガキなどによる意見・要望を集積するシステム、ホームページでは意見・要望を受け付けるコーナーを設け、双方向による情報提供の仕組みを確保します。

### 自己変革 内部評価・外部評価による変革

地域セルフガバメントは、広報誌やホームページを利用した区民の満足度や意識を調べるアンケート調査を実施することで、常に区民によって評価されます。これら区民アンケートを元に、推進会議では、報告書を作成し、区長と区議会に提出し、評価を受けます。このような内部評価・外部評価を受けるシステムを確保し、常に自己変革する組織であり続けます。

### 自己学習 環境の激変に対応する学習システム

地域セルフガバメントは、他の地域セルフガバメントからの評価、他自治体や他の自治組織からの評価を得、その中で切磋琢磨し、学習し続けます。地域セルフガバメントの中には、地域セルフガバメント大学を設立し、年齢や性別、職業いかんに関わらず、区民同士が気軽に学びあう、学習の場・コミュニティを作ります。



#### 人材活用 多様な人材が活躍できるコミュニティ

地域セルフガバメントの構成メンバーを中野区在住の区民に限定しないことで、区内在住の人材だけでなく、広範囲からより多くの優秀な人材が、地域セルフガバメントにつどうことができます。同時に、各地域セルフガバメント独自の「人材バンク」によって埋もれていた人材の発掘・活用を、「地域セルフガバメント大学」によって人材育成を押し進め、地域セルフガバメント内の人材ネットワークを形成していきます。この地域セルフガバメントのネットワークには、新たに発掘された人材だけでなく、これまで地域自治を支えてきた町会・自治会、住区協議会などの自治組織、NPOなどが集結することで、さらなるコミュニティの充実、人材交流、人材活用が生まれます。

#### 積極活動 自治への興味・関心の高まり

地域セルフガバメントは、いままで自治活動を積極的に行ってきた区民、自治に関心のあった区民の行動や思いを、反映させやすいシステムです。誰もが直接的に参加できるため、無関心層や自治に関わる時間を作れない区民、中野区人口の約半数を占める「10年以内転居区民」も活動しやすくなります。また、推進会議のメンバー選定に、無作為抽出の枠を設けることで、自治に関わる人、興味を持つ区民の割合が増加します。こうした区民の積極参加・積極活動が地域をさらに発展させていきます。

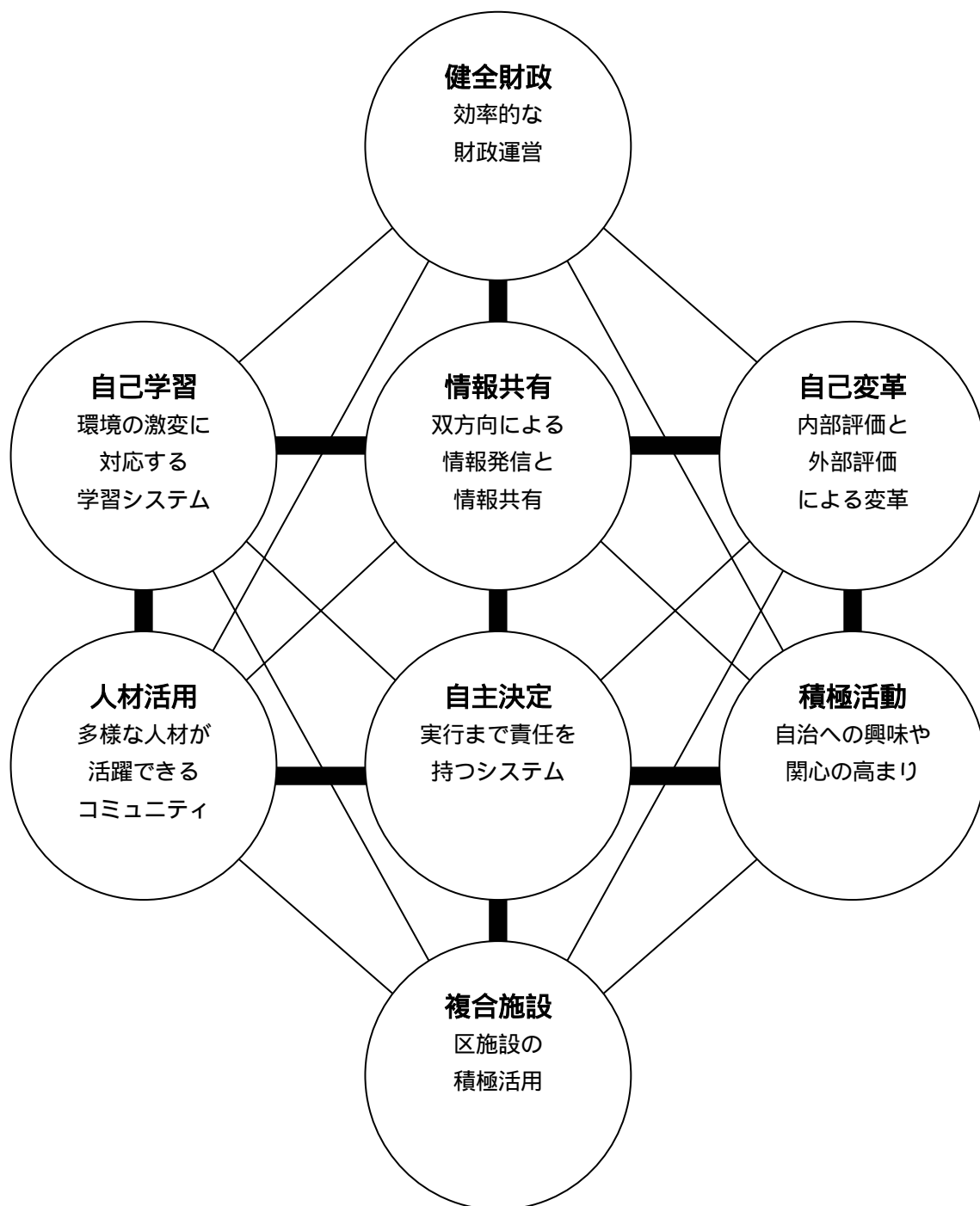
#### 健全財政 効率的な財政運営

地域セルフガバメントを成立させるためには、区役所の役割の見直し、整理が必要です。その整理作業を通して、区役所が一手に負っていたサービスの一部を、地域セルフガバメントと区民が担い、効率的で健全な財政運営へのシフトが可能になります。区の財政負担は、サービスを受けるだけだった区民が、サービスをする側、共に助けあう側に移行することで、減少します。

#### 複合施設 区施設の積極活用

地域セルフガバメントでは、小学校、中学校などの余裕教室の多目的利用（複合施設化）を積極的に押し進めます。複合施設には、従来の小・中学校の他に、高齢者施設、事務局、幼保施設などを組みこんでいきます。地域セルフガバメント内の区施設の適正な配置や運営、地域センターの今後の利用方法や存続は、地域特性や利用率などを勘案して、地域セルフガバメントが決定します。これによって、区施設や地域センターの複合施設化や、利用しやすい施設などへの転換が容易になります。

## 仕組み図



## [ 区役所と地域セルフガバメントの役割分担 ]

### 区役所の役割

区役所は、( 1 )大きなビジョンの策定および展開 ( 2 )基本計画の立案および展開 などを行い、区内全域に「基本的なサービス」を徹底させます。

### 地域セルフガバメントの役割

地域セルフガバメントでは、「基本的なサービス」の具体的な受け取り方の中身を決定したり、独自プランを決定、実行します。また、区役所が担えない、地域に密着したきめ細かいサービスを実施します。

### 共通の役割

情報の共有や防災、まちづくり、人材のネットワーク作りなど、大きな視点ときめ細やかな視点が必要な分野は、両者が共同して担います。

## [ 区民の権利 ]

### 住民の権利

住民は、( 1 )地域セルフガバメントへの参加、または不参加を理由として、不利な扱いを受けない権利、( 2 )区から基本的なサービスを等しく受ける権利、を持っています。

### 住民以外の地域セルフガバメント構成メンバーの権利

区施設の利用や地域セルフガバメントのメンバーとして参加・発言する権利を持っています。ただし、受けられるサービスは、住民と同じでない場合もあります。

## [ 地域セルフガバメントへの移行の工程 ]

地域セルフガバメントに移行するためには、わたしたち区民ひとりひとりの積極的な自治への関わり、自治への意識の高まりが必要になってきます。“自分(たち)で考え、決め、行動し、責任を持つまち”を作るために、基本構想策定後ただちに、行動する必要があります。そのために、その工程、過程ごとの到達目標などを、行政と区民双方がいつでも確認できるように随時、公開します。同時に、ホームページやアンケート調査などを利用した区民調査を行い、地域セルフガバメントへ移行するための準備、例証を進め、地域セルフガバメント実現に向けての取り組みを確かなものにしていきます。

### 工程表

- 1 . 「基本構想を描く区民ワークショップ」のメンバーが中心になって、町会・自治会や住区協議会などの自治組織、NPOなどの団体、区民に、区報や区のホームページなどを使って広く呼びかけ、「地域セルフガバメント設立準備会」を立ち上げる。
- 2 . 「設立準備会」では、地域セルフガバメントについての話し合いや勉強を行う。ここで、区割りが明確になっていくことが望ましい。
- 3 . 「設立準備会」が中心となって、「説明会」を開催し、理解と情報共有をはかっていく。
- 4 . 「設立準備会」では、自治の現状やまちづくりの問題点を話し合い、ここで出たテーマについては、設立準備会のメンバー以外の区民の参加も要請し、実行できることは直ちに実行していく。
- 5 . 「地域セルフガバメント大学」を地域セルフガバメントにさきがけて設置し、ここで勉強会、人材育成を行っていく。

第4分野メンバー（50音順）

磯 平一郎  
井上 一行  
浦志眞壽基  
大熊 直彦  
大槻喜代子  
岡田 弘道  
小田 順子  
(リーダー) 角山 祥道  
上村 晃一  
久保芙美子  
小林 義人  
笹川 克巳  
(サブリーダー) 佐谷けい子  
柴田 完治  
(サブリーダー) 須藤 泰男  
塚本 敬  
福地 辰雄  
星野 恵子  
前迫美知子  
松野 幹孝  
村田 哲  
本橋 一夫  
山田多摩夫